

第6回共同ワークショップをインドネシアで開催

(開催の経緯)

インドネシア公共事業省道路橋梁研究所及び国総研は、2009年11月に交わした道路及び交通分野における国際研究協力の実施についての合意に基づき、これまで5回にわたってインドネシア及び日本両国で共同ワークショップを開催してきました。

平成21年6月 連携意向/研究ニーズ調査会合(ジャカルタ、バンドン)
平成21年11月 公共事業省研究総局道路橋梁研究所 IRE との連携覚書の締結
平成22年3月 第1回WS開催バンドン(副大臣ほか200名参加)連携分野特定
平成22年6月 IRE 所長他来日(10月シンポの事前調整会議)
平成22年10月 気候変動・道路環境に関する研究連携に関するアジア太平洋
シンポジウム共催(バリ、7各国参加)研究プロジェクト特定
平成23年1月 第3回WS開催ジャカルタ「研究ロードマップの合意Ⅰ」
平成23年6月 第4回WS開催シュラワシ「研究ロードマップの合意Ⅱ」
平成23年9月 「Study Tour in TSUKUBA, KANSAI」(実験施設の現代化調査)
平成23年10月 第5回WS開催マタラム(進捗発表/共有等)
平成24年3月 第6回WS開催バンドン(研究ロードマップの合意Ⅲ(改正含む))

(今回のワークショップ)

今回の第6回ワークショップは、3月8日から10日にかけて、ジャカルタ、バンドンの両市で行われ、日本側からは、国総研の他、土木研究所、在インド日本大使館、JICA等が、インドネシア側からは、公共事業省研究総局、道路総局、道路橋梁研究所及び水資源研究所、関係民間企業、バンドン大学等が参加しました。

(今回の目的)

今回のワークショップの第一の目的は、2010年バリでの国際シンポジウムにおいて策定された研究連携プロジェクトの1つである「トンネル建設と地下プロジェクト」についての共同研究ロードマップを改訂することであり、第二の目的は、橋梁の建設と維持管理の質的管理についての新しいロードマップを策定することです。さらに、第三の目的は、水・河川災害分野における研究のニーズや研究状況等を把握し、水資源及び河川政策に関する新たな研究連携の可能性を模索することです。

(今回の成果)

本ワークショップにおいて、ジャカルタでは、公共事業省で Hasan 研究総局長を表敬し、研究連携方針の確認を行うとともに、橋梁とトンネルのセッションに分かれて発表・討議を行い、橋梁セッションでは調査手法、維持管理、疲労、長大橋の建設等について、トンネルセッションでは技術基準や建設のガイドライン等について議論を深め、それぞれロードマップの改訂と新しいロードマップの立ち上げに合意しました。バンドンでは、トンネル予定地及び橋梁管理の現地調査を行ったほか、水資源研究所を訪れ、干ばつ、灌漑、ハザードマップ、Xバンドレーダー等について発表・討議を行いながら、今後の研究連携の具体について質疑を行いました。



(Hasan 研究総局長との表敬会合)

(*) 研究連携戦略や中堅・若手のネットワーク形成の重要性等を再確認しました。



(トンネルワークショップ)



(橋梁ワークショップ)



(Ari 水資源研究所長との会合)



(河川現地視察の様子)



(橋梁現地視察の様子)



(道路現地視察の様子)

(今後の展開)

今後の活動としては、今年6月にインドネシア、ベトナムの両国の研究者を対象にして日本で行われる中間報告会において、今回のトンネル、橋梁、河川を含めた研究連携全体の発表、討議を行い、研究連携を更に進展させる予定です。

(国際研究推進室)